

日本腎臓病薬物療法学会誌執筆ガイドライン

1. 表紙および要旨の体裁

- 1) 表紙には論文種別、表題、著者全員の氏名とその所属名が書かれていること。
- 2) 表題は内容をよく表現する簡潔なものとし、和文で 50 文字、英文で 30 語以内とする。
- 3) 著者氏名の表記は「姓 名」または「First name Middle name Family name」の表記とする。なお、Middle name 以外は原則として省略しないこと。
- 4) 所属が 2 カ所以上の場合、著者氏名の右肩に所属番号を付ける。所属番号は算用数字 (1, 2, …) とする。
- 5) 責任著者 (corresponding author) 1 名の氏名右肩にはアスタリスク (*) を付けること。
- 6) 表紙の下部に責任著者の所属、氏名、住所、連絡先 (e-mail アドレス) を記載すること。
- 7) 要旨 (abstract) およびキーワード (key words) は表紙の次のページから記載すること。
- 8) 要旨は原則として背景・目的、方法、結果、結論の各項目を含み、簡潔にまとめられていること。なお、項目 (「目的」、「結果」など) を見出しとしてつけないこと。
- 9) 要旨には引用文献や脚注の番号を付けないこと。
- 10) 要旨の文字数は、和文で 800 字以内、英文で 400 語以内とする。
- 11) キーワードは、和文の場合は日本語で、英文の場合は英語で 4 語以上 6 語以内とする。
- 12) 表紙、要旨 (キーワードを含む)、本文および図表リスト (または、Legends) には表紙を「1」として一連のページ番号を算用数字でつけること。

2. 本文の体裁

- 1) 本文は要旨・キーワードの次のページから書くこと。
- 2) 本文は原則として、緒言 (Introduction)、方法 (Materials and Methods)、結果 (Results)、考察 (Discussion)、倫理的配慮 (Ethical Considerations)、利益相反 (Conflict of interest)、引用文献 (References) の構成で記載すること。ただし、総説、症例報告はこの限りではない。
- 3) 本文の総文字数は原則として以下の通りとする。ただし、引用文献は含まない。
 - 1) 原著: 和文 12,000 字, 英文 6,000 語以内
 - 2) 総説: 和文 20,000 字, 英文 10,000 語以内
 - 3) 短報: 和文 9,000 字, 英文 4,500 語以内
 - 4) 症例報告: 和文 4,000 字, 英文 2,000 語以内
- 4) 図表、写真は刷り上がりの面積あたり、以下の文字数としてカウントする。なお、面積はキャプション (図表のタイトル)、注記 (legend) を含むものとする。
 - 1) 1 ページ全面 (名刺 8 枚分の大きさ; 18.0×22.0 cm): 400 文字
 - 2) 1/2 ページ: 200 文字
 - 3) 1/4 ページ: 100 文字
 - 4) 9.0×5.5 cm (名刺サイズ): 50 文字
- 5) 本文および図表はそれぞれ別のファイルとして作成し、図表は本文中に組み込まないこと。
- 6) 倫理的配慮の項目は人を対象とする研究や動物実験実施の有無にかかわらず、必ず設けること。ここには、倫理審査受審の有無、倫理審査が必要な場合は遵守した指針および受審した倫理審査委員会名、承認番号を記載すること (証明書の添付は不要)。
- 7) 謝辞や追記などが必要な場合は利益相反の後、引用文献の前に挿入すること。
- 8) 原稿は原則として、印刷物ではなくファイルを電子メールに添付して事務局へ提出すること。
- 9) 論文投稿時に指定された様式の利益相反 (COI) 自己申告書を PDF として同時に提出すること。なお、査読プロセスにおいて利益相反状況に変化が生じた場合は、その都度、申告書を提出すること。
- 10) 総説 (依頼したものを除く) には自著論文を複数件引用するのが望ましい。

3. 要旨、本文および図表の作成

- 1) 和文、英文に限らず要旨および本文は A4 サイズの用紙に 12 ポイントのフォントを用い、24 行（または、ダブルスペース）で作製すること。
- 2) 表紙、要旨、本文、図表リストは原則として DOC または DOCX ファイル（Microsoft Word のファイル）として作成すること。
- 3) フォントは遊明朝、MS 明朝、ヒラギノ明朝、Times New Roman の使用が望ましい。ただし、図表・数式に関してはこの限りではない。
- 4) 要旨および本文中にはゴシック体、ボールド体を用いず、下線を引いてはならない（表題、見出し、図・表・式番号等については印刷時にゴシック体、ボールド体に変換される）。なお、図表・数式に関してはこの限りではない。
- 5) 図表のキャプションおよび注記は、和文論文の場合は日本語で（ただし、英語表記を基本とする単語・用語は除く）、英文論文の場合は英語で記載すること。
- 6) 図は PDF, TIFF または PNG ファイルとして作成すること。
- 7) 表は原則として DOC または DOCX ファイル（Microsoft Word のファイル）として作成すること。
- 8) 図表は刷り上がりの実寸（最大で 18.0×22.0 cm）で作成すること。
- 9) 図表で用いる文字は原則として 8 ポイント以上とする。
- 10) 図表は、A4 サイズ 1 枚に 1 点として作成すること。ただし、1 枚ずつ別ファイルにする必要はない（複数ページを 1 ファイルとしてもよい）。
- 11) 図および表には、本文に出てくる順にそれぞれ一連の番号を付け、この番号（図表番号）で本文中に言及箇所を明記すること。
- 12) 図表の番号、キャプションおよび注記は別紙にリストとして作成し、引用文献の後に「図表リスト（または、Legends）」として添付すること。
- 13) 本文中の図表を挿入する箇所に赤字で図表番号を示すこと。
- 14) 写真は鮮明なデジタルデータ（JPEG, BMP, TIFF 等）で投稿すること。掲載は原則としてモノクロとなる（カラー写真として掲載する場合は別途費用を請求する）。
- 15) 略語を用いる時は初出時、次の例に従い日本語表記またはスペルアウトを行い、以後は略語を用いること。ただし、別表にあげる略語についてはスペルアウトの必要はない。なお、要旨にも略語を用いることはできるが、本文で同じ略語を用いる場合でも本文の初出時には日本語表記またはスペルアウトを行うこと。
例 1) アセトアミノフェン (APAP)
例 2) European Best Practice Guidelines (EBPG)
例 3) 生体電気インピーダンス法 (body impedance analysis ; BIA)
- 16) 編集委員会で、学会誌としての統一上、術語・記号・図表の体裁を変更する場合がある。
- 17) 総説で既発表の図表を用いる時は、出典名を記入し、且つ著作権所有者の了解を得ること。
- 18) 人名・地名・薬品名は、日本語表記が一般的なもの以外は原則として英語表記を用いること。なお、日本で販売されている医薬品名については日本語表記とする。
- 19) 度量衡の単位は SI 基本単位 (kg, s, m, mol など)、一貫性のある SI 組立単位 (Pa, J, Ω, °C, Sv など)、および SI 併用単位 (L, min, ° など) とそれらに SI 接頭辞を付けたものを基本とする。なお、リットルを使用する場合は大文字表記 (L) とする。
- 20) 引用文献数は原著で 30 編以内、短報・症例報告で 10 編以内とする。ただし、総説では制限を設けない。
- 21) 本文の文献引用箇所には冒頭から順次番号（片括弧算用数字の上付き）を付すこと。次の形式に従い、本文の末尾に「引用文献」として引用順に一括して記載すること。

- i. 書籍は、①著者名（最大6名：6名を超える場合は和文表記なら「他」、欧文表記なら「et al.」）：②論文名. ③編者名, ④書籍名. ⑤所在地：⑥出版社名, ⑦発行年(西暦)；⑧初ページ数 - 終ページ数. の順に記載する。
例1) 平田純生：透析患者の薬物適正使用. 西沢良記 編, 最新透析医学. 東京: 医薬ジャーナル, 2008; 502-506.
例2) Aronoff GR, Bennet WM, Berns JS, Brier ME, Kasbekar N, Mueller BA, et al.: Drug Prescribing in Renal Failure. Dosing Guidelines for Adults and Children. Fifth Edition. Philadelphia: American College of Physicians, 2007.
- ii. 雑誌は、①著者名（最大6名：6名を超える場合は和文表記なら「他」、欧文表記なら「et al.」）：②論文名. ③雑誌名 ④発行年(西暦); 巻数: 初ページ数-終ページ. の順に記載する。ただし、電子ジャーナルの場合は巻数とページ数の代わりにデジタルオブジェクト識別子 (DOI) を記載する。なお、雑誌の略号は Index Medicus および医学中央雑誌(医学中央雑誌刊行会編)に準ずる。
例1) 平田純生, 和泉智, 古久保拓, 太田美由希, 藤田みのり, 山川智之：血液透析による薬物除去率に影響する要因. 透析会誌 2004; 37: 1893-1900.
例2) Tsujimoto M, Higuchi K, Shima D, Yokota H, Furukubo T, Izumi S, et al.: Inhibitory effects of uraemic toxins 3-indoxyl sulfate and *p*-cresol on losartan metabolism *in vitro*. J Pharm Pharmacol 2010; 62: 133-138.
例3) Asma SO, Nouf MR, Hala AA, Nawal MR, Raeesa MA, Maha AA, et al.: Ruboxistaurin attenuates diabetic nephropathy via modulation of TGF- β 1/Smad and GRAP pathways. J Pharm Pharmacol 2016; DOI: 10.1111/jphp.12504.
- iii. インターネットからの引用も引用文献として記載し、ホームページ名：ページタイトル、URL; 最終アクセス日. の順に記載する。
例) 日本腎臓病学会: 非典型用形成尿毒症症候群 (aHUS) 診療ガイド 2015, https://cdn.jsn.or.jp/guideline/pdf/ahus_2016-2.pdf; 2017 年 10 月 1 日.

4. 和文論文の英文要旨について

- 1) 和文論文の場合、すべての審査終了後、当該論文の表題、著者全員の氏名・所属、要旨およびキーワードを英訳したものを「英文要旨」として、DOC または DOCX ファイル (Microsoft Word のファイル) で作成し提出すること。ただし、審査で不受理となった場合はこの限りではない。
- 2) 英文要旨は必ず英文校閲を受けて、校閲者（英語を母国語とするものに限る）の所属、氏名と署名または英文校閲業者が発行した校閲証明書を PDF ファイルとして添付すること。
- 3) 英文要旨の提出を以て正式な受理とする。
- 4) 英文論文の場合に添付していた和文要旨は廃止する。

5. ガイドラインの作成および改正

このガイドラインは編集委員会が作成・改正する。

2017 年 7 月 1 日作成
2018 年 6 月 1 日改訂
2018 年 9 月 1 日改訂
2019 年 4 月 13 日改訂
2020 年 1 月 12 日改訂
2023 年 5 月 20 日改訂